

# Enami Sanada himo

真田幸村が広めたとされる「真田紐」は、現代においても様々な用途で使われていますが、その技術を受け継ぐ職人はほんの僅かとなっている。「真田紐師・江南」は今や絶滅の危機にある、草木染めの手織りを京都で唯一真田紐で作っている。



## 江南

**Craft:** 真田紐

**A director:** 和田 伊三男

**Address:** 京都市東山区問屋町通り五条下ル上人町430番地

# I5

## interview

### with

#### Isao Wada

和田 伊三男 真田紐師江南  
真田紐職人



海外での経験を元に真田紐 江南15代目を受け継ぐ。今では全国の茶道具・武具・呉服関係の真田紐を作製している。



#### 失敗することはありますか？

僕らの場合は紐自体の失敗なりイマイチだったなあってとこだわりのりもしますし、それを加工した上でモノとして売ったりとかはしますね。

#### どう言った失敗をしますか？

そうですね紐自体で言えば真田紐は縦糸と横糸を圧縮して織っていくんですね。だから通常の織物と比べるとかなり目が詰まった紐なわけですね。

真田紐って一枚で織る一重織と筒状に織る袋織って二種類あるんですね。袋織の場合だと一重織が二枚重ねになっているわけ螺旋状に織っていくんですね。柄として見えてるとは全部縦糸しか見えないんですねでも物によっては柄が点々で見えてしまったりとかそういうのは粗になりますよね。商品としては良くないですよ、緑にしたら緑が出てくるし、オレンジにしたらオレンジが出てくる。だから左右対称の柄を使う事で横が目立たないようにしている。手織の場合だと1cmほど織ったら気がつくんですけど機械織りだとね、そのまま走っちゃうんで織る前に考えとかないといけない。

#### それが手作業の強さでもありますよね

そうですね臨機応変にできるっていうのは。プロダクトとして量産品になるとね機械織だと粗が出てきやすい。

あとは小物を作る場合は例えば長さとか耐久性だとか、紐自体には耐久性はあるんだけどそれがセットになった時に商品のペットボトルホルダーなんかはキャップを開いてベルトを通すんですけど紐のベルトの部分が短くした方がブラブラしないでいいんだけ

ど部分的に干渉し切れてきちゃうんですよ。長くするとその分耐久性は上がる。これ使う人っていうのは500mlのペットボトルをスポーツなんかでつける人が多いんですよ。そうすると耐久性の問題っていうのはやっぱり考えるし。例えば今の電化製品だと早くに潰れてしまわないと買い替えが起こらないんですよ。俗にいうソニータイマーって、よくソニーの商品は潰れやすいなんて言いますが長く持って3~5年で潰れないと新商品が買ってもらえない。今のプロダクトだとそういう耐久年数なんかも考えるんだけど真田紐の場合は基本桐箱なんかで使っていると50年~100年なんですわ切れるのが。これははあまり動かすものではないからここまで耐久性はあるけど本来の使い方でない別のやり方で商品にするとすると2~3年で切れるのがいいのって考えますよね。その方が愛用してくれた人たちがあつたら新しいのまた買おうでしょ？だけ職人さんの考え方で言ったらなるべく持たすように作るわけですよ。昔から伝統工芸っていうのは鉄器とか漆の物にしる作って完成した時が本当の完成じゃないわけなんですよ。そこから使っていかれて50年くらいたった時に完成品になるように作ってある。だから基本的にそんだけ持たすっていうのがあるわけですよ。

#### 桐箱の真田紐の結び方ってなぜ複雑な結びかたをするんですか？

難しい結び方するには理由があるんですよ。基本的に真田紐って結んで大事なものを桐箱に入れるんですけど、真田紐にはもう一つの意味もあってここに結び方が二つあるでしょ？一つが表千家の結び方もう一つは裏千家の結び方で左右逆の結び方なんです。裏千家の人はこの結び方しか教えて貰えない。こういう作法のこの結び方教えてるんやからこの結び方覚えろって言われるわけですよ。なぜこの結び方するかっていうと知らんわけですよ。その理由は昔武士がお茶やってたわけなんですけど蔵からお茶出すでしょそれを今に並べといたりするわけですよ。夜の間に茶碗に毒塗られると暗殺されちゃうわけなんです。だから誰かが開けたらすぐ分かるって意味でこの結び方を教えられる。セキュリティなんです。だから同じ家ごとに結び方も違えば定期的に変えたりする。で紐は紐で各家で柄が違ってたりするんでその家のやって分かるし。現代での言い方すると紐の柄がID、結びがパスワード。それがたまたま裏千家の結び方やったっていうだけで変えてもいいわけなんです。





真田紐  
Sanadahimo

## ねじれ

ここにある「失敗」は真田紐の種類の一つである袋織りでアクセサリーを作る際に、縦糸と横糸で平たい紐状に織ってゆくという真田紐の特徴から直線状に繋げてしまうと段々とねじれてしまうというもの。その為、元々少しねじれた状態で作る必要がある。古くから侍の鎧や茶道具など形を変えて使用されてきた真田紐は現代においても工業製品と形を変えて使用されている。

"Failure" here is one type of Sanada rope. When we make accessories with bag weaving, if we connect linearly from the characteristic of Sanada string that we weave in warp and weft with warp and weft, it twists step by step. That is what it is. For that reason, it is necessary to make it originally twisted. Sanada rope which has been used by changing shape such as samurai armor and tea ceremony since ancient times is also used in modern industrial products with different shapes.

From Google Translate

